

第 24 回東北高等学校放送コンテスト山形大会 開催要項

<http://www2.iwate-ed.jp/housou/tohoku/> ウェブ開催につき、例年と異なるところがあります

1. 目的

豊かな創造性と未来への展望を持つ人間としての高校生に対して、校内放送をとおり番組の制作技術の向上、表現力、創造性の開発および、豊かなコミュニケーションと文化活動の振興を図る。

2. 主催

東北地区高等学校文化連盟放送部会

3. 主管

山形県高等学校文化連盟放送専門部

4. 日時

令和 3 年 1 月 30 日(土)～2 月 7 日(日)

5. 会場

ウェブ上で開催

<http://www2.iwate-ed.jp/housou/tohoku/>

6. 開催部門 (参加規程, 制作・審査規程参照)

(1) アナウンス部門

(2) 朗読部門

(3) ラジオキャンペーン部門

(4) テレビキャンペーン部門

7. 審査員 (制作・審査規程参照)

各県代表の教育職審査員による。

8. 表彰 (全部門共通)

最優秀賞 1 賞状・副賞(楯・大)

優秀賞 2 賞状・副賞(楯・中)

優良賞 3 賞状・副賞(楯・小)

入選 4 賞状

9. 日程

12 月 11 日(金) エントリー手続き締切

1 月 20 日(水) メディア提出締切

1 月 30 日(土)～2 月 7 日(日) 大会のサイトで限定公開

2 月 7 日(日)正午 審査締切

集計後 2 月 8 日をメドに結果を発表

10. 各種規程

参加規程, 制作・審査規程, 様式等は別に定める。大会の web サイトで公開する。

<http://www2.iwate-ed.jp/housou/tohoku/>

第 24 回東北高等学校放送コンテスト山形大会 参加規程

<http://www2.iwate-ed.jp/housou/tohoku/> ウェブ開催につき、例年と異なるところがあります

1. 参加資格

各県事務局から推薦された個人または学校。

2. 各県推薦(エントリー)

(1) 推薦(エントリー)数

ア アナウンス部門・朗読部門…各県 6 名以内、かつ、1 名 1 部門。

イ ラジオキャンペーン部門・テレビキャンペーン部門…各県 6 本以内、かつ、それぞれの部門について各校 2 本以内。

(2) 推薦(エントリー)締切 令和 2 年 12 月 11 日(金)正午

(3) 推薦(エントリー)方法 各県事務局から大会事務局に、別に配付する様式により作成した電子データを、メールで送付する。

(4) エントリー後のエントリー内容の変更は認めない。

3. 参加料

(1) 各部門とも 1 名(1 本)につき、1,000 円

県参加料 1 県につき、20,000 円

(このほか東北地区高等学校文化連盟放送部会費として、10,000 円)

(2) 納入期限 令和 2 年 12 月 11 日(金)正午

(3) 納入方法 各県事務局がとりまとめの上、大会の口座に振り込む。振込手数料は、各県事務局負担。

山形銀行 寒河江支店

普通 900834

第 24 回東北高等学校放送コンテスト山形大会

代表 わたなべみき 渡邊美樹

(4) その他 領収書は各県事務局のものとする。

4. 原稿・番組進行表・メディアの提出

(1) 提出する原稿・番組進行表・メディアの数

全部門とも、メディア 1・原稿/番組進行表 1 部。このうち、原稿/番組進行表 1 部は各県事務局でメディアと照合し、保管する。メディアの詳細は、制作・審査規程を参照。

(2) メディアの提出締切

令和 3 年 1 月 20 日(水)正午必着

(3) 提出方法 各県事務局とりまとめの上、集約担当県事務局に郵送等により送付する。費用は各県事務局負担。送付先は次のとおり。

〒020-0887 岩手県盛岡市上ノ橋町 7-57

岩手県立盛岡第二高等学校 菊地達哉

5. その他

(1) 当コンテストのために集められた個人情報については、コンテストの目的以外には使用しない。

(2) 使用著作物については、著作隣接権を含め、権利者の許諾を得るとともに、制作者の責任において権利関係を適切に処理すること。

(3) 応募された番組などは、主催者に関連する印刷媒体、ウェブサイト、放送などで利用することがある。制作にあたっては、番組に登場する著作物や出演者、協力していただいた方々などから、ネット上での限定公開(期間・視聴者を限定)も含めた承諾を得ておくこと。

6. 大会事務局

山形県立寒河江高等学校 庄司有奈

〒991-8511 山形県寒河江市六供町 2-3-9

tel. 0237-86-2195

手続き一覧

送付者	内容	方法	送付先	締切
参加校	原稿/番組進行表・メディア	郵送等	各県事務局	(各県の指定期日)
各県事務局	参加者・参加校推薦、審査員報告	メール	大会事務局	12 月 11 日(金)正午
	参加料、東北高文連放送部会費	口座振込	大会事務局口座	
	メディア	郵送等	岩手県事務局	1 月 20 日(水)正午必着

第 24 回東北高等学校放送コンテスト山形大会 制作・審査規程

<http://www2.iwate-ed.jp/housou/tohoku/> ウェブ開催につき、例年と異なるところがあります

1. アナウンス部門

- (1) 内容 次のア、イのいずれかの規定による。
- ア 次年度のNHK杯全国高校放送コンテストの規定：
自校の校内放送に使用するものとし、原稿を生徒が自作したものに限る。
- イ 次年度の全国高等学校総合文化祭の規定：郷土の話題を全国の高校生に伝える内容の自作原稿。
なお、静止画は使用できない。
- (2) 規定時間 番号と氏名を読むこととし、それらを含め、1分10秒以上1分30秒以内。
- (3) 原稿様式・制作様式 次のア～エにより作成する。
- ア 表紙ならびに本文は様式1による。
- イ 原稿の大きさはA4横を二つ折り・袋とじし、仕上りA5縦判・右2カ所留めで、1部作成する。
- ウ 音声ファイルは、編集せずに仕上げたmp3(モノラル・128kbps 推奨)をCD-Rで提出する。
- エ ファイル名は、a01.mp3(エントリー番号.mp3)のようにする。
- (4) 審査の視点 次のア、イに留意して、総合的に採点する。
- ア 内容
- (a) 素材の選び方は適切であるか
- (b) 文章表現は適切であるか
- イ アナウンスの技術
- (a) 自然な発声で聞き手に伝わるようにアナウンスされているか
- ・発声・発音・マイクの使い方
- (b) 正しく伝える抑揚表現ができているか
- ・内容把握・イントネーション・プロミネンス・アクセント
- (c) 間(ポーズ)は適切か
- ・テンポ・ポーズ
- なお、録音の状況は審査の対象としない。

2. 朗読部門

- (1) 内容 次の規定による。作品の改変は認めない。抽出は文頭から開始し、文末で終了とすること。
- ・著作権が消滅している任意の作品(1967年12月31日までに逝去した作家の作品)。なお、SEやBGMは使用できない。
- (2) 規定時間 番号、氏名、著者名(訳者名は読まない)、作品名(短編集は短編名)を読むこととし、それらを含め、1分30秒以上2分00秒以内。
- (3) 原稿様式・制作様式 次のア～エにより作成する。
- ア 表紙ならびに本文は様式1による。
- イ 原稿の大きさはA4横を二つ折り・袋とじし、仕上りA5縦判・右2カ所留めで、1部作成する。
- ウ 音声ファイルは、編集せずに仕上げたmp3(モノラル・128kbps 推奨)をCD-Rで提出する。
- エ ファイル名は、r01.mp3(エントリー番号.mp3)のようにする。
- (4) 審査の視点 次のア、イに留意して、総合的に採点する。
- ア 内容
- (a) 作品の選定は適切であるか
- (b) 朗読として適切な部分を抽出しているか
- イ 朗読の技術
- (a) 内容表現上、声の出し方や言葉の運びが自然で適切か
- ・発声・発音・マイクの使い方
- (b) 正しく伝える抑揚表現ができているか
- ・内容把握・イントネーション・プロミネンス・アクセント
- (c) 間(ポーズ)は適切か
- ・テンポ・ポーズ
- なお、録音の状況は審査の対象としない。

3. ラジオキャンペーン部門

(1)内容 指定するキーワードを題材とした番組。

ア 高校生らしい自由な視点からアピールする。

イ 内容や構成は自由とするが、学校生活のみならず、広く社会に視点を求めた高校生らしい切り口や主張のある作品が望ましい。

ウ 番組は、参加資格を有する自校生徒オリジナルのものであること。すでに発表・放送・出版されたものや、他の作品などからの脚色や改作は認めない。

エ 放送番組として不適切な内容を含まないこと。

(2)キーワード 「わ」

(3)規定時間 30秒以上1分以内

(4)制作様式 次のア〜クにより制作する。

ア mp3(ステレオ・128kbps 推奨)を CD-R で提出する。ファイル名は、rc01.mp3(エントリー番号.mp3)のようにする。

イ メディアには、エントリー番号・学校名・タイトルを様式4によりプリントする。

ウ メディアのケースには、エントリー番号・学校名・タイトルを様式5により貼付する。

エ 再生は、原則としてステレオ(L/R)で行う。

オ 最初に「ラジオキャンペーン部門」「作品名」の順でクレジットコールを入れたのち、3秒後に本編を開始する。

カ 本編の最後の音から3秒後に「制作は〇〇高等学校(放送部・委員会)でした」のクレジットコールを入れる。

キ クレジットコールにはBGMや効果音をつけない。

ク 計時は本編の最初の音から、終わりのクレジットコールの「制作は〇〇高等学校(放送部・委員会)でした」の「せ」の音までとし、その計測値から3秒を差し引いた値をもって再生時間とみなす。

(5)番組進行表様式 次のア〜エにより作成する。

ア タイトルの文字は、JISコードの範囲内の全角15文字相当以内とする。

イ 表紙は様式2-1, 2ページ以降は様式2-2による「CUEシート」、様式2-3「使用著作物一覧」、様式2-4「音源使用許諾書」、様式2-5「取材許諾・著作物等ご提供のお願い」とする。他の著作物を使用していないなど記載する内容がない場合は「なし」と記載して付す。

ウ 他の著作物を使用した場合は、JASRACの明細書、著作権フリー音源であることを示すレーベル等のコピー、その他使用したすべての著作物について使用許諾を得たことを示す文書の写しを貼付する。

エ 番組進行表の大きさはA4縦判・左上1カ所留めで、1部作成する。

(6)審査の視点 次のア、イに留意して、総合的に採点する。

ア テーマ

(a) 指定のキーワードを理解し、番組内容にテーマを効果的に表現しているか

(b) ラジオの特性を活かして作品に表現しているか

イ 制作技術

(a) 制作の手法

(b) 取材の方法や努力

(c) 企画構成

(d) 演出・編集

(e) 技術

・録音の技術

・アナウンスやナレーションの技術

・音楽や効果音の使い方など

4. テレビキャンペーン部門

(1)内容 指定するキーワードを題材とした番組。

ア 高校生らしい自由な視点からアピールする。

イ 内容や構成は自由とするが、学校生活のみならず、広く社会に視点を求めた高校生らしい切り口や主張のある作品が望ましい。

ウ 番組は、参加資格を有する自校生徒オリジナルのものであること。すでに発表・放送・出版されたものや、他の作品などからの脚色や改作は認めない。

エ 放送番組として不適切な内容を含まないこと。

(2)キーワード 「わ」

(3)規定時間 30秒以上1分以内

(4)制作様式 次のア〜カにより制作する。

ア NTSCワイド16:9・DVD-Video形式のDVD-R, または、MPEG-4・AVC/H.264・BD-RE形式のBD-Rを提出する。ファイル形式はyoutubeにアップできるものであればmp4でなくてもよい。その場合、ファイル名は、tc01.mp4(エントリー番号.mp4)のようにする。

イ メディアには、エントリー番号・学校名・タイトルを様式4によりプリントする。

ウ メディアのケースには、エントリー番号・学校名・タイトルを様式5により貼付する。

エ 音声の再生は、原則としてステレオ(L/R)で行う。

オ 本編の前後に5秒間ずつ、様式3のテストパターンを入れる。テストパターンは無音とする。

カ 計時は初めのテストパターンの終了時から、終わりのテストパターンの最初までとする。

(5) 番組進行表様式 次のア～エにより作成する。

ア タイトルの文字は、JIS コードの範囲内の全角 15 文字相当以内とする。

イ 表紙は様式 2-1, 2 ページ以降は様式 2-2 による「CUE シート」、様式 2-3「使用著作物一覧」、様式 2-4「音源使用許諾書」、様式 2-5「取材許諾・著作物等ご提供のお願い」とする。他の著作物を使用していないなど記載する内容がない場合は「なし」と記載して付す。

ウ 他の著作物を使用した場合は、JASRAC 等の明細書、著作権フリー音源であることを示すレーベル等のコピー、その他使用したすべての著作物について使用許諾を得たことを示す文書の写しを貼付する。

エ 番組進行表の大きさは A4 縦判・左上 1 カ所留めで、1 部作成する。

(6) 審査の視点 次のア、イに留意して、総合的に採点する。

ア テーマ

・指定のキーワードを理解し、番組内容にテーマを効果的に表現しているか

・テレビの特性を活かして作品に表現しているか

イ 制作技術

(a) 制作の手法

(b) 取材の方法や努力

(c) 企画構成

(d) 演出・編集

(e) 技術

・撮影や録音の技術

・アナウンスやナレーションの技術

・音楽や効果音の使い方など

5. 審査(全部門共通)

(1) 各部門とも、教育職審査員 12 名(各県 2 名)でおこなう。

(2) 審査員は、指定の期間にウェブ上の発表ファイルを視聴し、得点と講評を指定のフォームに入力する。

(3) 静音環境(ヘッドフォン等の使用)、原則として初回の聴取で審査をおこなう。

6. 採点・講評(全部門共通)

(1) 部門の「審査の視点」に基づき、100 点法、1 点刻みで総合的に採点する。

(2) 採点のめやすは次のとおりとする。

20	30	40	50	60	70	80	90	100
			普通		良い		大変良い	

7. 得点集計および順位(全部門共通)

(1) 得点集計と順位

すべての審査員の合計点から最高点と最低点を除いた審査点の高い順に順位を決定する。

(2) 順位決定の特例 合計点と同じ場合は次のア～イの順に従って順位を決定する。

ア カットされた得点の高い方を上位とする。

イ アで同点の場合は、審査会で順位を決定する。

(3) 審査会

審査会は、部門ごとの審査主査(開催県審査員のうち 1 名)と大会会長で構成し、必要に応じて開催する。

8. 規定違反(全部門共通)

(1) 規定違反は審査の対象としない。なお、重大な違反が判明した場合は、大会後においても賞を取り消すことがある。

(2) 計時の許容範囲は、アナウンス部門と朗読部門は±2 秒、ラジオキャンペーン部門とテレビキャンペーン部門は±1 秒とする。エントリー時に各県の責任において遵守させる。

9. 講評・審査結果一覧(全部門共通)

(1) 講評は、大会終了後に該当校に交付する。

(2) 審査結果一覧(合計・上下カット後の審査点のみ)は、大会終了後に各県事務局に送付する。

(3) 提出したメディアは、返却しない。

10. 各県事務局の業務

(1) エントリー時

ア 自県のエントリー手続きをおこなう。

イ 全部門の原稿/番組進行表とメディアを照合し、この規定どおりに作成していること(原稿とメディアの内容の一致、権利処理等、規定時間等)を確認する。

ウ 確認後、原稿/番組進行表は大会終了まで保管する。

エ 確認後のメディアを、集約担当県に送付する。自県の方を 1 枚のメディアにまとめてよい。その場合はメディアのレーベル面は県名のみの記載でよい。

(2) 大会公開期間中

ア 自県の審査員が指定の期間に審査をおこなったことを確認する。不測の事態においては、県の責任において代理の審査員をたてて対応する。

イ その他、大会中に発生した自県の問題について対応する。

(3) 大会終了後

大会事務局から送付される自県の賞状・楯などを該当校に配付する。

(4) その他、大会事務局から依頼された業務を分担する。